

令和3年度生野区の取組み 振り返りについて (こどもの未来部会：抜粋分)

令和4年度 生野区区政会議
第1回こどもの未来部会



令和4年6月1日(水)



目 次

・子育てにやさしく、教育につよいまち	3
・（２－１）安心してこどもを産み育てることができる環境づくり	4
・（２－１－１）ライフステージに応じた子育て支援の充実	5
・（２－１－２）子育てが楽しくなるまちづくり	6
・（２－２）未来を生き抜く力の育成	7
・（２－２－１）次世代の学校づくり（学校配置の見直し）	8
・（２－２－２）次世代の学校づくり（「生野の教育」の実現）	9
・（２－２－３）まちの教育力を上げる	11

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題 2

子育てにやさしく、教育につよいまち

めざすべき将来像 (最終的なめざす状態：概ね10~20年間を念頭に設定)

生まれてから義務教育終了に至るまで「ひとりも取りこぼさない」仕組みにより、子育てしたい、教育を受けさせたいと思えるまち

主なSDGsゴール



現状 (課題設定の根拠となる現状・データ)

- ◆こども・子育て環境
 - <区内人口の推移>
 - ・区内人口は減少傾向にあるとともに、少子化が急速に進行している。
 - 平成17年国勢調査 138,564人 うち15歳未満人口割合 11.4% (15,744人)
 - 平成22年国勢調査 134,009人 うち15歳未満人口割合 10.6% (14,205人)
 - 平成27年国勢調査 130,167人 うち15歳未満人口割合 9.2% (11,982人)
 - <こども・子育て支援に関するニーズ等調査(平成25年度)>
 - ・子育てを「つらいと感じる」「少しつらいと感じる」との回答が、就学前児童で14.4%、就学児童で11.4%。
 - ・子育てが地域の人や社会に支えられていると「感じない」と回答した人が、就学前児童で31.2%、就学児童で32.9%。
 - <区政に関する区民アンケート>
 - ・子育てのしやすいまちであると「感じる」「どちらかと言えば感じる」と回答した人が(H30) 49.6%、(R1) 52.2%。
 - <子どもの生活に関する実態調査(平成28年度)>
 - ・こどもに絵本を読み聞かせていると回答した人(5歳児保護者)が63.2%。

要因分析

- ◆こども・子育て環境
 - ・少子化、核家族化が進んでいる中、ニーズ調査等にも出てるように、安心して子育てできる環境が整っていない、子育てが地域や社会に支えられていないと感じられており、育児不安やストレスを感じた際に相談できる相手がおらず、孤立化してしまう危険がある。
 - ・絵本の読み聞かせが少なくなることにより、親子のコミュニケーションの希薄化やこどもの知的好奇心の発育不全につながっている。
- ◆学校教育環境
 - ・小規模校については、昭和50年と比べて区内の児童・生徒数は約74%減少している一方、学校配置の見直しが進んでいないため、学校あたりの児童生徒数が減少し、小規模校化が進む要因となっている。
 - ・学力課題に対して、自主学習習慣の確立を含め学校外での学びの機会が不足しており、学校の取組だけではこどもに多様な学びの機会を十分に提供することが難しい。

課題

- ◆こども・子育て環境
 - ・安心して子育てのできる環境を整えるため、子育て情報が容易に収集できる環境を整備するとともに、孤立化しがちな子育て世帯などが気軽に相談や交流できるような機会を提供するなどの支援を図っていくことが必要。
 - ・出生率が低く、少子化が急激に進行している現状を改善し、次世代を担う若い世代を呼び込むためには、区民だけでなく、区外の方々にも安心して子育てのできる環境をアピールすることが必要。
 - ・絵本読み聞かせの必要性や楽しさを知る機会を提供する等により、親子のコミュニケーションやこどもの知的好奇心を高める必要がある。
- ◆学校教育環境
 - ・学校の配置を見直し、小規模校を解消し、適正な教育環境を実現する必要がある。
 - ・学校における取組への支援と課外での学ぶ機会を確保し、こどもへの多様な学習機会を増やすことが必要である。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

- ◆こども・子育て環境
 - ・区民が安心して子育てできる環境が整っていると感じる区民の割合は、昨年比へ増加しているが目標には到達していない。個々の子育て支援の取組について参加者から好評を得ていることから、「安心して」という設問項目に対し新型コロナウイルス感染拡大が長く続く閉塞感が影響していると思われる。子育てに関する情報をより多くの区民に周知することにより閉塞感の払しょくができればと考える。今後、子育て支援の情報発信をさらに進め、子育て支援機関・施設と連携し子育てしやすいまちづくりを進めることが必要。
- ◆学校教育環境
 - ・小学校における特色ある学校づくりについては、子育て世代に限定すると、小学校世代で80.0%、中学生世代で68.8%と高くなることから、一定の成果はあると考える。
 - ・地域での学習体験等については、新型コロナウイルス感染症による生涯学習ルーム等の中止の影響が大きいと考える。新型コロナウイルス感染症対策のうえ、活動できる環境整備の働きかけを進める。

めざす成果及び戦略2-1

安心して子どもを産み育てることができる環境づくり

(様式2)

めざす状態 (概ね3~5年間で念頭に設定)	戦略 (中長期的な取組の方向性)				戦略の 進捗状況
次世代を担う子どもたちが健やかに育つための環境づくりや相談支援体制を作り、安心して子育てができるまちとなっている状態。	次世代を担う子どもたちが健やかに育つために、区民が安心して子どもを産み育てることができる環境や相談支援体制をつくり、子育てが楽しくなるまちづくりを進める。				順調でない
アウトカム(成果)指標 (めざす状態を数値化した指標)	アウトカム指標の達成状況				課題 ※有効でない場合は必須
安心して子育てができる環境が整っていると感じる区民の割合：令和3年度末までに80%以上	今年度 49.7%	前年度 42.6%	個別 順調でない	全体 順調でない	戦略のアウトカムに対する有効性 有効であり、継続して推進 今後の方向性 ※有効でない場合は必須 ・子育てに関わる方などは、新型コロナウイルスの蔓延等、子育て家庭を取り巻く状況は、安心して子育てができる環境になっていないと感じている。 ・現行の取組を進めつつ、情報発信やイベント等を通して、子育て中の親子同士または支援者とのつながりにより安心して子育てできる環境づくりにむけた取組を行う。

具体的取組

2-1-1
ライフステージに応じた子育て支援の充実

2-1-2
子育てが楽しくなるまちづくり

具体的取組 2-1-1

ライフステージに応じた子育て支援の充実

計画（取組内容）

元決算額（3,510千円） 2 予算額（4,466千円） 3 予算額（4,457千円）

プロセス（過程）指標
(取組によりめざす指標)

- ◇妊娠から出産、乳幼児期から就学期にわたる各ライフステージをトータルで支援
 - ・妊娠期から、保健師との顔の見える関係づくりによる継続した支援を行う。
(大阪市版ネウボラ)
 - ・子育て支援機関等と連携し、適切な機関につなげる。
「生野区子育て支援会議」を開催し、情報共有・事例検討等連携を進める（6回開催）
 - ・各種こどもの居場所のネットワーク会議に参画し、地域団体等の連携を進め、子育て世帯への支援体制強化に取り組む。
- ◇区民が安心して、子どもを産み育てることができる環境づくり
 - ・発達障がい児等支援
各健康診査や子育て相談時に、発達障がい児またはその疑いのある子を早期に発見し、療育支援に取り組む。

健診フォロー教室に参加した養育者について、こどもの養育に参考になったなど肯定的に感じた養育者の割合80%以上

【撤退・再構築基準】
上記割合が60%未満であった場合、事業を再構築する

自己評価	プロセス指標の達成状況		当年度の実績	前年度までの主な実績
	中間	年度末	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師の似顔絵と担当地域を示したチラシを広報誌に1回/年掲載し、母子手帳交付時に配布。 ・生野区子育て支援会議：6回 ・こどもの居場所に関する意見交換会→不登校・引きこもりの支援連絡会に併合：2回 ・健診フォロー教室等に参加した養育者について、こどもの養育に参考になったなど肯定的に感じた養育者の割合：100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳6か月児健診フォロー教室「すくすく」：16組(R1) 6組(R2) ・生野区子育て支援会議：6回(R1) 4回(R2) ・こどもの居場所に関する意見交換会：1回(R1) 2回(R2) ・健診フォロー教室等に参加した養育者について、こどもの養育に参考になったなど肯定的に感じた養育者の割合：80.7%(R1)、100%(R2)
	目標：達成（見込）	目標：達成		
	取組：予定どおり進捗	取組：予定どおり実施		
戦略に対する取組の有効性		課題と改善策 ※プロセス指標の達成状況が「未達成（見込）」、戦略に対する取組の有効性が「有効でない」場合は、必須		
中間	年度末	中間	年度末	
有効であり、継続して推進	有効であり、継続して推進	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいの疑いのある児童らを対象にした教室の今後の実施方法については、感染予防の徹底や参加人数等について検討し継続した取組みを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オミクロン株の確認以降、感染が急拡大したことにより、発達障がいの疑いのある児童らを対象にした教室の開催は今年度は未実施となったが、引き続き来年度の実施方法等検討し、取組みを継続して推進していく。 	

具体的取組 2-1-2

子育てが楽しくなるまちづくり

計画（取組内容）

元決算額（1,083千円） 2予算額（1,313千円） 3予算額（1,313千円）

プロセス（過程）指標
(取組によりめざす指標)

◇子育てを支援することに加え、子育てがより楽しくなるような仕掛けづくり

- ・「生きるチカラを育む絵本プロジェクト」
絵本サポーターの発掘・育成
生野区絵本ダイアリー「いくみんのほんだな」の発行
- ・「子育て応援イベント いくのっ子広場」（1回以上開催）
- ・子育て講演会の開催（1回以上開催）

◇まちぐるみ子育て宣言

「生野区まちぐるみ子育て宣言」賛同団体の募集

◇生野のまちで子育てしたくなるよう積極的な情報発信

「生野区子育て情報サイト『いくの de 育～の』」などを活用して、地域の子育て支援情報などを効果的に発信するとともに、更なる充実を図る。



- ①「子育て応援イベント いくのっ子広場」
- ・子育て応援イベント参加者数の平均が前年度以上

- ②「生野区子育て情報サイトでの積極的な情報発信」
- ・生野区子育て情報サイトのアクセス数を前年度以上

【撤退・再構築基準】

- ①イベント参加者数の平均が前年度の75%以下であった場合事業を再構築する。
- ②上記アクセス数が前年度75%以下であった場合、事業を再構築する。

自己評価	プロセス指標の達成状況		当年度の実績	前年度までの主な実績
	中間	年度末	<ul style="list-style-type: none"> ・いくのっ子おさんぽラリー(子育て応援イベント)：10月実施(参加者901名) ・生野区子育て情報サイトのアクセス数 8,741件 【計測不能の8月分は前後の平均値】 ・絵本ダイアリー「いくみんのほんだな」：R4.3改定・配布 ・子育て講演会オンライン開催：2回開催 ・「生野区まちぐるみ子育て宣言」：宣言の具体化として地域へ「こどもの気つき」冊子配布（6月～配布：改定版作成・R4.4～配布） 	<p>【令和2年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくのっ子おさんぽラリー(子育て応援イベント) 11月～12月:参加者720名 ・生野区子育て情報サイトのアクセス数 7,328件 (R3年2月末) ・絵本ダイアリー「いくみんのほんだな」 R3年1月～配布開始 ・子育て講演会オンライン開催 1回 ・「生野区まちぐるみ子育て宣言」賛同団体 96団体
	目標：達成（見込） 取組：予定どおり進捗	目標：達成 取組：予定どおり実施		
	戦略に対する取組の有効性		課題と改善策 ※プロセス指標の達成状況が「未達成（見込）」、戦略に対する取組の有効性が「有効でない」場合は、必須	
中間	年度末	中間	年度末	
有効であり、継続して推進	有効であり、継続して推進	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により人を集めにくくなっているが、実施方法を工夫して対応できている。今後、コロナウイルス感染症による開催制限の長期化が懸念されることから、そのことに影響されない開催方法にシフトする。 また、SNS等を活用した情報提供をより充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響が続くなか、特に子育て層は人の集まるイベント等への参加を控えている。今後、より一層新型コロナに影響されない開催方法の工夫が必要で、引き続き検討を進める。 	

めざす状態 (概ね3~5年間で念頭に設定)	戦略 (中長期的な取組の方向性)	戦略の 進捗状況
<p>生野のまちで学び育つ子どもたちが、確かな基礎学力のもと、広い視野をもって、社会や人生が変化しても、課題を発見し解決していく力を身につけている状態</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域住民と具体的かつ丁寧に意見交換を重ねながら、区西部地域の学校再編を進める。 基礎学力を身につけ、学び続けるための「自立(自律)学習」、自分を知り視野を広げ目標を持つための「キャリア教育」、教育活動をサポートする外部連携を充実させる「チーム学校」を3つの柱に、教育環境の充実を図る。 地域の生涯学習活動や生涯学習推進員を支援し、生涯学習に取り組む区民が学習の成果を地域に還元できるよう支援する。 子どもが地域の大人に学ぶことで、多世代交流を図る。 	<p>順調でない</p>

アウトカム(成果)指標 (めざす状態を数値化した指標)	アウトカム指標の達成状況				戦略のアウトカムに対する有効性	課題 ※有効でない場合は必須
	今年度	前年度	個別	全体		
<ul style="list-style-type: none"> 区内の各小中学校で、地域との連携や学校独自の取り組みなど特色ある学校づくりが進められていると感じる区民の割合：令和3年度末までに80%以上 	42.5%	45.8%	順調でない	順調でない	有効であり、継続して推進	<ul style="list-style-type: none"> 小学校における特色ある学校づくりについては、子育て世代に限定すると、小学生世代で80.0%、中学生世代で68.8%と高くなることから、一定の成果はあると考える。 地域での学習体験等については、新型コロナウイルス感染症による生涯学習ルーム等の中止の影響が大きいと考える。
<ul style="list-style-type: none"> 学校だけでなく、地域でさまざまな学習、体験や交流ができる機会があると感じる区民の割合：令和3年度末までに50%以上 	35.8%	34.7%	順調でない			<p>今後の方向性 ※有効でない場合は必須</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策のうえ、活動できる環境整備の働きかけを進める。</p>

具体的取組

2-2-1

次世代の学校づくり(学校配置の見直し)

2-2-2

次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現)

2-2-3

まちの教育力を上げる

具体的取組 2-2-2

次世代の学校づくり（「生野の教育」の実現）

計画（取組内容）

元決算額（4,406千円）2 予算額（6,433千円）3 予算額（7,336千円）

プロセス（過程）指標
（取組によりめざす指標）

①学び支援事業

児童の学力状況の把握および自主学習習慣の確立や健康・体力の保持増進を目的に、模擬検定等の受検を学校が活用できる機会を提供する。

- ・全小学校

②民間事業者等を活用した課外授業「いくの塾」

中学生の学習習慣の定着、基礎学力向上のための取組として、民間事業者等による課外授業を行なう。

- ・3教室

③生きるチカラを育む課外授業

生徒の自尊感情を醸成し、将来の夢や目標を持ち、その実現に必要な「自ら学ぶ力」の定着、基礎学力の向上に向けて、中学校で放課後に民間事業者等を活用した課外授業および進路・悩み相談を実施する。

- ・4中学校

④生きるチカラまなびサポート事業

「キャリア教育」や「性・生教育」を支援する「生きるチカラまなびサポーター」を学校の要請に応じて派遣する。

- ・区内小中学校 26校

上記②③（課外授業）については、より一層の受講者数の増が図られるよう周知、募集方法の改善などの取組みを進める。

①事業実施後アンケートで学習意欲を問う設問について、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上。

②事業参加前後アンケートで「学校の授業以外で勉強する日は1週間に何日ありますか」という設問に対し、「全くしない」と回答する生徒の割合を半減。【改定履歴あり】

③事業参加前後アンケートで「学校の宿題以外にどれくらい勉強をしていますか」という設問に対し、「勉強をしない」と回答する生徒の割合を半減。【改定履歴あり】

④事業実施後アンケートで「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問について、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」といった否定的な回答をした受講者の割合を小学校、中学校とも6.0%未満。

【撤退・再構築基準】

①肯定的な回答をする児童の割合が50%未満の場合、②「全くしない」と回答する生徒の割合が75%以上の場合、③「勉強をしない」と回答する生徒の割合が75%以上の場合、④否定的な回答の受講者の割合が小学生：7.1%、中学生：8.9%を超える場合、それぞれ事業を再構築する。【改定履歴あり】

具体的取組 2-2-2

次世代の学校づくり（「生野の教育」の実現）

自己評価	プロセス指標の達成状況		当年度の実績	前年度までの主な実績	
	中間	年度末	①全18小学校中15校で実施 【プロセス指標】80% ②5月から生野中学校・巽中学校・生野区民センターで開講、受講者数39名 【プロセス指標】7.4%→5.0% ③5月から大池中学校、東生野中学校、田島中学校、新生野中学校で開講、受講者数68名 【プロセス指標】42.6%→48.0% ④6月から17小中学校に44回の講師派遣 【プロセス指標】3.7%	【令和2年度】 ①全19小学校中16校で実施 ②8月から生野中学校・巽中学校・生野区民センターで「いくの塾」を開講、受講者数39名 ③8月から大池中学校、東生野中学校、田島中学校、新生野中学校で「みらい塾」を開講、受講者数56名 ④7月から16小中学校に32回の講師派遣	
	取組：予定どおり進捗 目標：達成（見込）	目標：①④達成 ②③未達成 取組：①②③④とも予定どおり実施			
	戦略に対する取組の有効性		課題と改善策 ※プロセス指標の達成状況が「未達成（見込）」、戦略に対する取組の有効性が「有効でない」場合は、必須		
	中間	年度末	中間	年度末	
	（プロセス指標）未測定		①②③④とも有効であり、継続して推進 ②新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため使用できなかった会場について、代替を用意し開校した。今後も同様の状況となれば対応していく。 ③新型コロナウイルス感染症により休講となった際には、家庭学習教材を提供し、補習による自主学習習慣の継続を図った。今後も同様の状況となれば対応していく。 ④新型コロナウイルス感染症感染拡大により1学期の外部講師派遣のスケジュール調整が難航し、延期が発生している。緊急事態宣言解除後は順次調整を進めている。		
		②「学校の授業以外で勉強する日は1週間に何日ありますか」という設問に対し、「全くしない」と回答する生徒の割合は半減には至らず未達成となったが、減少したことから成果はあったと考え、引き続き、事業を実施する。しかし、これまでの課外授業では、その場だけの学習で終わる傾向にあったことから、学習や進路の相談を設け、学習意欲が高まるよう、また学習方法を理解し一人でも学習ができるように課外授業を進めていく。 ③新型コロナの影響により欠席する生徒もいる中、出席率は約80%、「成績が上がったと思えますか」の設問に肯定的な回答をした生徒の割合は約70%、塾代助成の利用率は約75%となっており、学習意欲や学力の向上等、本事業の目的達成に有効な結果もあり、今後は実態把握がより正確にできるよう複数のプロセス指標にする等、総合的に考えていく。なお、来年度から塾2事業を一元化し、「いくの塾」として事業を実施していく。			

具体的取組 2-2-3

まちの教育力を上げる

計画（取組内容）

元決算額（1,022千円） 2 予算額（1,168千円） 3 予算額（1,168千円）

プロセス（過程）指標
（取組によりめざす指標）

◇生涯学習の推進

- ・区民ギャラリー等における作品展示 【改訂履歴あり】
- ・生涯学習ルームの開設：18校下
- ・生涯学習推進員連絡会の開催：10回



生涯学習ルームフェスティバル

生涯学習ルームへの参加者へアンケートを実施し、「区の生涯学習事業で学んだ内容を、地域行事等に活かすことができましたか」という問いに対し、「できた」と答えた割合：60%以上

【撤退・再構築基準】
上記割合が40%未満の場合、事業を再構築する。

自己評価	プロセス指標の達成状況		当年度の実績	前年度までの主な実績
	中間	年度末	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より中止（休止）となった区生涯学習フェスティバルや生涯学習ルームの補完事業（作品発表の場）として区役所（区民ギャラリー）、区民センター（紫陽花ギャラリー）、図書館（展示スペース）において、作品展示を実施。 ・生涯学習ルームについては、新型コロナウイルス感染状況により、随時活動開始予定。開催分のプロセス指標の結果、62.8% ・生涯学習推進員連絡会の開催：6回 ただし、推進員との情報共有については、デジタル媒体を通して月2回程度実施。 	<p>【令和2年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇生涯学習の推進 ・生涯学習ルームの開設：11校下、生涯学習推進員連絡会の開催：開催4回 ・参加者アンケートで「学んだ内容を地域行事等に活かすことができました」と答えた割合：71.5% ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より中止（休止）となった区生涯学習フェスティバルや生涯学習ルームの補完事業（作品発表の場）として区役所、区民センター、図書館において、作品展示を実施。
	目標：達成（見込）	目標：達成		
	取組：予定どおり進捗	取組：予定どおり実施		
戦略に対する取組の有効性		課題と改善策 ※プロセス指標の達成状況が「未達成（見込）」、戦略に対する取組の有効性が「有効でない」場合は、必須		
中間	年度末	中間	年度末	
(プロセス指標) 未測定	有効であり、継続して推進	-	-	